

開講科目名 / Course	小児看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	小児看護学援助論 では小児の発達過程の特質を理解するための主要理論に基づき、小児の行動を多面的にとらえ、発達段階に応じた日常生活の援助方法と保育技術を習得した。小児看護学援助論で習得した内容に基づいて小児の病態について理解し、小児の健康障害を持つ小児とその家族への看護について深く学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の各期における成長・発達の特徴を説明できる。</li> <li>2. 小児とその家族や環境（状況）による看護について説明できる。</li> <li>3. 小児の特徴的な疾病の経過と看護について説明できる。</li> <li>4. 障害のある子どもの特徴と家族への看護を説明できる。</li> <li>5. 小児領域の特徴的な疾病と病態・治療について説明できる。</li> <li>6. 小児領域の特徴的な疾病の看護を説明できる。</li> </ol>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 小児の病態と看護1（不機嫌・痛み・呼吸困難・チアノーゼ）</li> <li>02. 小児の病態と看護2（発熱・けいれん・ショック）</li> <li>03. 小児の病態と看護3（電解質異常・下痢・嘔吐・脱水・便秘）</li> <li>04. 小児の呼吸器系疾患と看護</li> <li>05. 小児の免疫・内分泌・アレルギー疾患と看護</li> <li>06. 小児の循環器系疾患・運動器疾患と看護</li> <li>07. 小児の消化器疾患と看護</li> <li>08. 小児の血液・造血器系疾患と看護</li> <li>09. 小児の悪性腫瘍と看護</li> <li>10. 小児の腎・泌尿器疾患と看護</li> </ol>	
その他の授業の工夫	小児の疾患とその特徴については講義の前に個人で調べ学習をして提出する。 小児のイメージがない学生もいるため、視聴覚教材を活用してイメージできるように工夫している。	
時間外学修	事前学修：小児の疾患とその特徴については講義の前に個人で調べ学習をする（10h）。 事後学修：教科書と授業資料を用いて復習をする（10h）。	
評価方法と評価割合	筆記試験100%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	草野淳子：産科病棟助産師、保健所保健師 足立綾：病院小児科看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	産科病棟（新生児看護、出産後の母子愛着形成）、保健所保健師（未熟児訪問、乳幼児健診、母子の自主グループ活動）、病院小児科（小児に特有な疾患を持つ小児の看護、外来看護）の経験を踏まえて、小児の発達過程の特質と症状、疾患の理解を促す。また、発達段階に応じた健康障害がある小児の疾患と援助方法を教授する。	